# 九条の会．ひがしなだ ニュース

第６３号

2015 年 4 月
総会記念特集号



事務局　西谷利文　Tel 080-1485-5603　E-mail　nishi-t@hm.h555.net


私のひとこと

## 横への広がりを“力”に

田所　明治

九条の会.ひがしなだ９周年記念講演会は３月７日（土）夜、悪天候にもかかわらず、約 400 人の参加で、まずは成功裏に終えることができました。

今回の取り組みを通じて実感したのは、9 条の会運動の広がりです。「地元への貢献」を鮮明にした内田樹・神戸女学院大学名誉教授、話題の元自衛官・泥憲和さんをはじめ、多くの研究者・文化人・有識者といわれる人達に、幅広く集まっていただけるようになりました。

加えて、東は９条の会・尼崎連絡会、西は明石連絡会まで、市区ごとに組織された 11 の連合体とそれらを結ぶ 9 条の心ネットワーク、そして弁護士、医師や演劇鑑賞など分野別の会や市民学習組織など多くの協賛を得られたことは、従来にも増して大きな前進です。特に名前の明記を求めるでもなく、黙々と「縁の下の力持ち」に徹した多くの個人・団体の皆さんの奮闘を、忘れることはできません。

東灘の会は今般、念願のロゴマークをデビューさせることができました。この旗印のもと、「横への広がり」を軸に、安倍暴走政権から平和憲法を守り、ご一緒に活かしていこうではありませんか。

（九条の会.ひがしなだ世話人）

# メディアの劣化とアメリカに従属する日本

## ～９周年記念講演・対談　盛大に開かれる～

３月７日（土）うはらホールにおいて、九条の会.ひがしなだ９周年記念講演と対談として、神戸女学院大学名誉教授内田樹さんの講演と、内田樹さんと元自衛官の泥憲和さんの対談が行われました。

当日は、真冬並みの冷たい雨が降るあいにくの天気でしたが、内田さん泥さんの講演、対談を聞こうと神戸市内のみならず、遠くは仙台市や加古川市からも参加者があり、400 名近くの参加者で９周

年記念講演にふさわしく盛り上がりました。

内田さんは、いま日本のメディアがいかに劣化しているか、戦後７０年間の日本のアメリカ従属の実態などについて詳しくのべ、集団的自衛権行使の法整備を急ぐ安倍政権を厳しく批判しました。そして、元自衛官の泥さんとの対談では、“戦争を知らない大人たち”が増えているなかで、もっと戦争の現実を知らせることが必要だと話され、参加者の共感を呼びました。

（西谷利文）

参加者の感想より（抜粋）

○内田さんの講演は刺激的だった。特に最後の今後の予想（当たってほしくない）は、薄々心配していたことをはっきり言われたので怖い泥さんとの対談もまた違った角度からで興味深かった。（40 代、女性）

○ぼんやりと不安に思っていたことが言語化され、恐ろしく思いました。この平和を守るためにできること、本当にあるのでしょうか？戦前の人たちの「気がついたら遅かった」になりそうで…（50 代、女性）

○対談の泥さんの話が、元自衛官ということで、自衛隊の話や、米軍の話、戦闘地域の実態（感）が初めて聞く話で、とても驚き感心させられた。（50 代、男性）

**メディアも注目！**

9条果たした役割強調

東灘 内田名誉教授が講演

神戸女学院大学名誉教授の内田樹さんが、メディアがだめになった ひがしなだ が企画し 憲法9条などをテーマにしている 危機感がない と語った。 内田さんはメディアと指摘。「それでも、ここまで 自衛隊 が70年も平和を貫いた国はない。 結果的に、世界史でも類を見ない平和と繁栄を獲得した」と、9条の果たした役割を強調した。（斉藤正志）

市民団体 九条の会 東灘区住吉東町5の東灘区民センターで開かれた内田さんは、安倍政権による集団的自衛権行使容認の閣議決定などに触れ、「政

憲法9条などをテーマに語る内田樹さん＝東灘区民センター

による政権監視が機能していないとして「言論の自由があるのに、口をつぐんでいる」と批判した。

また「憲法9条がつくられたのは、米国が日本を軍事的に「無害化」するためだった」

３月１０日付　神戸新聞朝刊

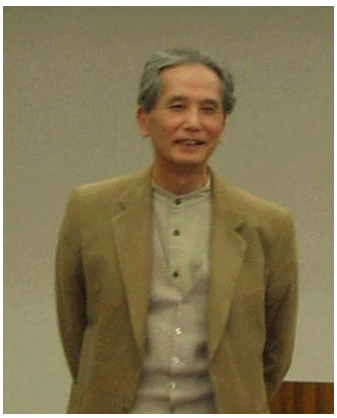
**9周年総会**

## 会則を改定し、「顧問」制を新設

## 新たな世話人に３弁護士を選任

記念講演会に先立ち、同日の午後 3 時から東灘区民センターの第１会議室で開催された 9 周年総会では、活動報告、新年度方針など、議案はすべて可決、承認されました。

新年度の世話人として推薦された深草徹、八木和也、坂本知可の３氏は、いずれも東灘区在住の弁護士。深草さんは、香雪美術館の東側に昨年末、「深草憲法問題研究室」を開設し、理論と実践を統一的に追及し、「真理に迫ろう」という構えです。顧問就任の要請を固辞し、あえて世話人として「縁の下の力持ち」的な役割を、買って出ていただいています。事実、記念講演会でも、弁護団チームのリーダーとして、不測の事態に備えて待機するなど、安全対策に万全を期していただきました。深草さんは後ほど、代表世話人にも就任。



新しく代表世話人に加わった深草徹弁護士

八木さんは、明日の自由を守る若手弁護士の会（あすわか）兵庫支部長、坂本さんは「劇団あすわか」の“主演女優”として活躍中。

また、今総会で会則を改定し、顧問の制度を新設しました。これは当面、記念講演メイン講師の内田樹・神戸女学院大学名誉教授を想定したもので、3 月 16 日には、地域へのご協力御礼訪問の一環として、住吉本町のご自宅を訪ね、初代の顧問就任を要請しました。

平和随想

## 民主主義は私たちの肩にかかっている

ジェフリー・メンセンディーク

私は仙台育ちのアメリカ人です。今、私の母国アメリカでは、民主主義がひん死の状態にあります。というのも、Big Money（お金を集約する巨大組織）の圧倒的支配のもとで、政治の仕組みが根底から覆されているからです。

2 年前、私はキング牧師の率いたワシントン行進の 50 周年を祝うために、何万という人々と共に首都ワシントンにいました。次々と演説する市民たちは、公正な賃金、選挙妨害をする法律、広がる格差などを問題としました。キング牧師たちが勝ち取った市民権が、奪い取られようとしているのです。私は彼らの怒りに共感すると共に、公民権運動で危険を承知で身を投じた多くの先人たちのことを思い、自分も今の時代と真っ向から向き合っているだろうかと、自分に問いかけました。

私が故郷としてきた東北も今、Big Money の支配のもとであえいでいます。特に福島における人権侵害には目を疑うものがあります。民主主義とは最も小さくされている者の声に耳を傾けること。決して福島の人々の不安を、力や数で封じ込めるようなことがあってはなりません。

今、福島を見ていて深い怒りを感じています。

（関西学院大学神学部准教授・宗教主事、東灘区在住）

## 「いのちをつなぐイベント」に注目

## 3 世代が交流、それぞれの平和を語り合い

「第 7 回いのちをつなぐイベント in 神戸 2015」が、2 月 28 日（土）～3 月 5 日（木）、神戸市灘区の神戸大学サテライト施設「のびやかスペースあーち」で開催され、毎日新聞にも写真付きで、大きく報道されました。よびかけ代表は、神戸・子どもと教育ネットワーク。

初日のメインイベントでは、灘区在住の立石洋子さん（83 歳）に戦争体験を聞いた後、「過去から未来へ、平和のうたごえでつなげよう」をテーマに、「青い空は」「ぞうれっしゃよ はしれ」「戦争を知らない子どもたち」「目撃者」「ねがい」などの歌声と詩の朗読で文化交流。「うたごえメンバー」も家族単位で募集し、大いに盛り上がりました。

続く 3 世代交流会では、「平和展」への思いを発表、3 世代がそれぞれの「平和への思いって？」を語り合いました。

翌 3 月 1 日（日）の「灘区戦跡ウォークラリー」は、雨天のため中止を余儀なくされましたが、再開された 3 月 3 日（火）～5 日（木）の平和展にも、多数の市民が参加。

子どもたちの映像や写真なども多数登場する「平和展」の企画は、神戸大学との共同によるもので、全体として多彩なコラボレーションが大きな特徴の 3 世代イベントでした。

九条の会訪問記（その 39）　９条の会・尼崎ネットワーク

## にじみ出る“真面目さ”

## 今秋 10 月に 10 周年の記念企画

9 条の会・尼崎ネットワークは今年 10 月で、結成 10 周年を迎えます。もとはといえば、「『九条の会』に賛同する尼崎講演会を成功させる会」として幅広い個人、団体などが呼びかけてスタートしただけに、今も随所にその名残りがみられ、活動の幅広さが大きな特徴となっています。

ネットワークへの参加リストには、九条の会としては、あまがさき 9 条の会からＲＵＮＮＥＲＳ９の会まで、新しく結成された尼崎市職退職者 9 条の会も加えて 21 の「会」が名を連ねていますが、ほかに、労組、業者団体や護憲・人権団体、グループも。それだけに、１月の新春の集いは、“オールスター“の感があります。

真面目さが滲む会議風景
（２月１２日、小田公民館）

目下のテーマは、憲法集会や沖縄への連帯行動、「戦後 70 年」への取り組み、そして 10 月の 10 周年総会＆記念講演に向けての準備など。学習・講演会にとどまらず、月 1 回発行の「9 条ネット通信」の発行やキチンとした会議、宣伝をはじめ街頭行動などにも「真面目さ」がにじみ出ています。

## 非核「神戸方式」決議 40 周年記念のつどい

太田昌克さん

3 月 18 日、勤労会館大ホールで開催された非核「神戸方式」決議 40 周年記念のつどいに参加しました。兵庫県原水協事務局長の梶本修史さんによる基調報告のあと、共同通信編集委員の太田昌克さんの「日米同盟の深層 ～密約と呪縛を超えて」と題する記念講演がありました。太田さんは、50 年代に軍事的な核持ち込みの策動が具体化していたに関わらず、ビキニの水爆実験に遭遇した第５福竜丸事件とそれに関連して東京の杉並区で起こった署名運動に端を発する原水禁運動の大波の中で、その試みが頓挫したこと。そして、日本人の核エネルギーが破壊的だとする観念を和らげるために核の平和利用が画策され、それに応じた正力松太郎や中曽根康弘などの政治家によって、日本全土に原発が設置されるようになったことを指摘して、歴史を動かすのは、やはり、民の声と運動だと強調しました。また、核密約の実態を暴いた、ご自身の経験を、熱く語られました。　（中村陽一）

NTP 再検討会議参加者の激励と決意表明

相次ぎ戦後 70 年企画

## 神戸空襲の会で内橋氏講演会

## 芦屋市は今秋、非核宣言記念碑も

戦後 70 年の節目の年に、兵庫県でも記念企画が相次いでいます。

神戸空襲を記録する会（中田政子代表）は５月 17 日（日）午後１時から、「あれから 70 年―戦後 70 年特別企画」と銘打ち、神戸文化ホールで、内橋克人氏講演会を開催します。

内橋氏は神戸ゆかりの経済評論家。一昨年８月、大倉山に建立した空襲犠牲者刻銘慰霊碑をつくる運動にも尽力し、協賛募金を呼びかけるなど、実現に大きく貢献しました。

演題は「『戦後 70 年を抱きしめて』―〈再びの暗い時代〉を許さない」。今の情勢にピッタリのテーマです。

公益財団法人神戸市文化振興財団が共催し、神戸市、同教育委員会、神戸新聞社、サンテレビが後援。参加費５００円で、申し込み先着８００人を定員としています。

一方、芦屋市は２月議会の施政方針演説で、山中市長が「平和祈念講演会を『みんなで考えよう平和と人権』事業の中で開催し、戦争体験を風化させない取り組みを行うとともに、非核平和都市宣言 30 周年記念碑を設置するなど、核兵器の廃絶や恒久平和の実現を目指した活動に取り組んでまいります」と表明。

芦屋市では 2000 年 10 月 15 日、同宣言 15 周年、市政 60 周年を記念し、市民募金を呼びかけて建立した“平和モニュメント”には、「宣言文」が入っていませんでしたが、今回は入れる方針です。予算案にも盛り込まれており、市議会での議決を経て 10 月頃には、市役所前庭の平和モニュメントの近辺に設置される見通しです。

さらに、日中友好協会も、「戦後 70 年は、日中戦争の視点で」と、全国的に呼びかけ、兵庫県連では、太平洋戦争期最大の大虐殺とされる中国湖南省「廠窖（しょうこう）惨案事件」の現地調査取材報告会を軸に、連続的な学習会を開催する計画です。

## 催し物案内

**暴走安倍内閣の「戦争法案」を考える学習会**

～「『切れ目』の隠された意味」「危険存立事態」って何だ？ ～

日時：**2015 年 ４月１５日（水）18:30～20:30**

会場：**神戸市勤労会館・多目的ホール**

講師：上脇博之・神戸学院大学法科大学院教授

主催：憲法改正問題に関する「懇談会」

（連絡先 兵庫県弁護士９条の会 . 078-361-9990）

**兵庫県弁護士９条の会**

**第 10 回総会記念講演**

日時：**４月１８日（土）14:00～**

会場：**あすてっぷ KOBE**

講演：「暴走安倍内閣の戦争法案」

講師：柳澤協二

（元内閣官房副長官補）

**神戸憲法集会**

日時：**５月２日（土）１３：３０～**

会場：**神戸芸術センター（新神戸駅南徒歩２分）**

講演①「日本は戦争をするのか」

半田　滋（東京新聞論説兼編集委員）

講演②「沖縄からみる日本の民主主義の現状と課題」

前泊博盛（沖縄国際大学教授）